

日本天文学会 1995 年度春季年会の開催と 講演の申し込みについて

春季年会は東京学芸大学(小金井市)で3月23日(休)から3月25日(出)までの3日間開催の予定です。プログラムは2月20日発行の天文月報3月号に掲載されます。

講演の申し込みは「〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上1月10日(休)までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送り下さい。講演は「口頭発表(講演10分、質疑応答5分)」、「口頭発表(3分、質疑応答なし)+ポスター発表」、及び「ポスター発表」にて行いますので、希望の発表形態を選択して下さい。口頭発表(3分)の質疑応答は数講演を一括して時間を設けて行います。今回は口頭発表(10分)も希望通り行う予定です。また、筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2つ目以降の講演はポスター発表とします。

Post-deadline papers も受け付けます。勿論これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circular に掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、年会直前(3月22日(休))まで受け付けます。講演方法はポスター発表となります。

全ての講演の申し込みには講演登録料が必要になりますのでお支払い下さい。ただし、特別会員の方は1講演につきのみ講演登録料が免除となります。また、いままでに年会講演を行ったことがなく、今回が初回の講演申し込みである方も、通常会員、会員外を問わず、1講演につき講演登録料が免除となります。

講演分野の分類は以下の通りです。申込み用紙の裏面も参照の上、ご記入下さい。

位置天文学、天体力学、太陽系、太陽、恒星、星形成、星間現象、銀河、活動銀河核、銀河団、宇宙論、観測機器、情報処理、天文教育、その他

新たに活動銀河核という分野を設け、銀河と銀河団また観測機器と情報処理をそれぞれ独立致しました。なお申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入下さい(例: 恒星(内部振動))。

講演申込者で年会出席旅費の補助を希望される会員は支部理事を通じて1月10日(休)までに必着するよう「国立天文台内 日本天文学会理事長」あてに申し込んで下さい。但し申込みのできる人は、1994年度会費納入済みの人で、原則として、連名の場合でも筆頭講演者であり、正式の給与を受けていない特別会員学生会費納入者に限ります。

講演申込み・発表に際しては特に次の事項を厳守して下さい。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
2. 連名の場合、発表者を講演著者の筆頭におく。
3. 複数講演申し込みの場合は2講演目以降はポスター発表に限りま。
4. 口頭発表においては、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターを使用すること。
5. ビデオプロジェクターの使用を希望される方は年会申込み期限までに連絡すること。

年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。会員外の方で講演を希望される方には、申込みの際に入会をお勧めしております。

年会中に集会のため、会議室の利用を希望される方は前もって、東京学芸大学 水野孝雄(電子メール: mizuno@yamabuki.u-gakugei.ac.jp, 電話番号: 0423-25-2111 (2687), ファックス: 0423-24-9832) までご連絡下さい。

参加費等

会員種別	特別会員	特別(学生)	通常会員	会員外
年会参加費	3.500円 *3.000円	1.800円 *1.500円	3.500円 *3.000円	4.000円
年会講演登録料	*3.000円	*3.000円	3.000円	5.000円
年会予稿集	2.000円 *1.800円	2.000円 *1.800円	2.000円 *1.800円	2.000円

- 1) 1月10日以前に申し込まれた方は*の金額となります。
- 2) *は1講演あたりの講演登録料です。ただし、特別会員は1講演分が免除されます。また、年会講演が今回初めての方も免除されます。
- 3) 予稿集代は特別会員会費には含まれていません。必要な方は別途申し込んで下さい。

申し込み方法

本誌挟み込みの申し込み用紙(郵便振替用紙の裏)に必要な事項をご記入下さい。

- (1) 申し込みたい項目の金額と合計額を通信欄に記入して下さい。
- (2) 送金額と住所、氏名をご記入下さい。
- (3) 出席を取り消された場合などの年会参加費など、申し込み者による変更の場合は一切払い戻し致しません。

払い込み方法

必要な金額は郵便振替もしくは銀行引き落としでお支払い下さるようお願いいたします。

(1) 銀行口座自動引き落とし：登録が済んでいる方は、本号挟み込みの申し込み用紙（郵便振替用紙の裏面）を1月10日までにお送りくだされば、後は学会側で自動的に引き落とします。引き落とし人は「JCBフリカエ」「JCBローン」など（銀行によって異なる）となり2月10日に引き落とされる予定です。まだ登録をなさっていない方は、申請用紙を学会事務室までご請求下さい。（1月10日締切に間に合わせるためには12月20日までに登録申請を済ませて下さい）

(2) 郵便振替：本号挟み込みの振替用紙をご利用下さい。

口座番号 00160-1-13595 社団法人 日本天文学会

締切

(1) 予稿現稿は**1月10日(火)必着**となっておりますので厳守して下さい。

(2) 年会費用の納入についても、*印価格は1月10日までの申込者に限らせていただいております。従ってその後の学会到着分には適用されませんので、*印価格で申し込まれた方は不足金を請求されることとなります。また郵便振替は、年末年始には10日以上かかることもありますので、ご注意ください。

(3) 春季年会予稿集は、1月10日迄に申し込まれた方には学会事務室より2月末頃にお手元へ送付いたします（送料：学会負担）。それ以降も2月末日までに代金が納入された方には送付するつもりでおりますが、*印価格にはなりません。（3月以降の申込には応じられません）

勿論、会場でも購入はできるように用意しますが、売り切れることもありますので、お早めに申し込まれるようお勧めいたします。

(4) 年会参加費、講演登録料の納入は年会会場でも受け付けます。

(年会実行委員会)

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、
2. (1)所属部門・所属講座、(2)勤務地、
3. 専門分野、
4. 職務内容・担当科目、
5. (1)着任時期、(2)任期、
6. 応募資格、
7. 提出書類、
8. 応募締切・受付期間、
9. (1)提出先、(2)問合せ先、
10. 応募上の注意、
11. その他（待遇など）

新潟大学理学部物理学科助手

1. 助手1名
2. (1)宇宙物理学研究室
3. 宇宙物理学理論。
研究、教育に意欲のある30歳前後までの若い方が望ましい。現在研究室にはスタッフが1名（大原謙一）おり、2名のグループとして学部学生及び大学院（修士、博士）の学生の教育研究指導にあたる。新たな研究グループの構築に積極的に取り組む方を希望する。
5. (1)決定後できるだけ早い時期
6. 着任までに博士の学位取得または取得見込の方
7. ●履歴書
●論文リストと主要論文5編以内の別刷各1部
●研究歴を含むこれまでの研究概要
●着任後の研究計画と教育に関する抱負
●他薦の場合は推薦書1通及び推薦者以外に本人に関する所見を述べ得る方1名の氏名と連絡先
●自薦の場合は本人に関する所見を述べ得る方2名の氏名と連絡先
8. 1995年1月17日(火)必着
9. (1)950-21 新潟市五十嵐二の町8050
新潟大学理学部物理学科
学科長 鈴木 宜之
(電話 025-262-6134)
(2)物理学科 大原 謙一
(電話 025-262-6162,
FAX 025-263-3961)
10. 封書に「宇宙物理学助手応募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと。

国立天文台研究員

1. 電波天文学研究分野3～4名、
一般の研究分野1～2名
2. (1)天文学及び関連分野
(2)国立天文台三鷹（電波天文学分野については原則として野辺山）
5. (1)平成7年4月以降でなるべく早い時期
(2)平成9年3月末日まで（1年に限り延長を認めることがあります）
6. 大学院修士課程修了者またはそれと同等以上の者で、原則として任地において研究及び業務に専念できること
7. (1)履歴書、(2)これまでの研究業績の概略、(3)論文リスト（共著の場合はその役割分担）、(4)研究計画（希望する任地、分野、指導教官があれば明記すること）

8. 平成7年1月9日(月) 必着
 9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
 国立天文台 台長 小平桂一
 (封筒の表に「国立天文台研究員応募書類」と朱記し、また『電波天文学分野』、『一般の研究分野』と明記し、簡易書留でお送りください)
 (2)国立天文台研究交流委員会委員長 石黒正人
 ☎ 0267-98-4392
11. 国立天文台研究員規則の定めによる(詳細は国立天文台管理部庶務課人事係または9(2)にお問合せください)
 その他: 選考は、国立天文台運営協議員において行います。

国立天文台電波天文学研究系教員

1. 助手 1名
 2. (1)電波天文学研究系
 (2)長野県南佐久郡南牧村野辺山
 3. 電波天文学(宇宙電波)
 4. 電波天文学研究系では、45m電波望遠鏡とミリ波干渉計の共同利用運用に責任を持つとともに、衛星打ち上げが間近に迫ったVSOP計画の諸活動を強化し、さらに電波天文学の将来計画としての大型ミリ波サブミリ波干渉計(LMSA)計画の実現を目指しています。このなかで、とくに、ミリ波干渉計による観測的研究やサブミリ波天文学の開拓に貢献でき、LMSA計画の推進にも強い意欲をもった若い研究者を求めます。
 5. (1)決定後なるべく早い時期
 (2)任期はありません。
 6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上の方
 7. (1)履歴書、(2)研究歴、(3)研究論文リスト及び主要論文別刷(共著の場合はその役割分担)、(4)自薦の場合は、研究計画と、本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(5)他薦の場合は、研究計画もわかる内容の推薦書
 8. 1995年1月25日(休)必着
 9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
 国立天文台台長 小平桂一
 (2)国立天文台電波天文学研究系 稲谷順司
 TEL: 0267-98-4382 FAX: 0267-98-2884
10. 封筒に「電波天文学応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員において行います。

理化学研究所研究員

1. 研究員1名
 2. (1)理化学研究所宇宙放射線研究室
 3. 宇宙物理学(実験と観測)
 4. 現在は主としてX線天文学の分野の研究を行っているが、この分野に限らず将来新しい宇宙放射線・宇宙物理学の分野を計測技術等を開発して推進する意欲のある方。
 現在の分野を問わないが、これまでのキャリアのある方の着任後の研究内容についてはご相談ください。
 5. (1)1995年4月以降(1995年10月1日付も可能)。(2)なし。
 6. 博士号取得者または平成7年3月に取得可能な方で満35歳(1995年2月1日現在)以下。
 7. (1)履歴書 (2)業績リストと主要論文別刷 (3)意見を伺える2名の氏名と連絡先 (4)研究に関する簡単な抱負。
 8. 1995年1月6日(金)
 9. 〒351-01 和光市広沢 2-1
 理化学研究所 宇宙放射線研究室 松岡 勝
 電話: 048-462-1111 内線 3221
 電子メール: matsuka@rkn.riken.go.jp
 10. 封筒に「応募書類」と朱書き書留で送付のこと。
 11. 選考は当研究所人事委員会に於て行う。

東京大学大学院理学系研究科天文学専攻教官

1. 助教授 1名
 2. (1)東京大学大学院理学系研究科天文学専攻(天文学宇宙物理学講座)
 (2)東京都文京区弥生 2-11-16
 3. 天文学
 4. 天文学の研究と教育(大学院天文学専攻及び理学部天文学科を担当)
 5. 平成7年4月以降なるべく早い時期
 6. 大学院博士課程修了、又はそれと同等以上の方
 7. ①履歴書②研究・教育活動歴③研究論文リスト及び主要論文別刷④研究計画書⑤(他薦の場合)推薦書
 8. 平成7年1月17日(火)必着
 9. (1)(2)〒113 東京都文京区弥生 2-11-16
 東京大学大学院理学系研究科
 天文学専攻長 尾崎洋二
 TEL: 03-3812-2111 ext 4256, 4254
10. 「天文学専攻教官公募書類在中」と朱書きして、簡易書留でお送り下さい。

茨城大学理学部物理学教室教員

1. 助手 1名
2. (1)宇宙物質学講座
現在、教授・天竺堯義、助教授・坪井昌人が在職している。
3. 星間分子の実験的研究(主としてサブミリ波、赤外線領域での分光)あるいは、電波天文学
5. 1995年4月1日
7. 履歴書、これまでの研究概要と今後の抱負、業績リスト、主要論文別刷(5編以内)、意見を伺える方2名の氏名と連絡先
8. 1995年1月20日必着
9. (1) 〒310 茨城県水戸市文京2-1-1
茨城大学理学部物理学教室主任 野田二次男
TEL 0292-26-1621 (内線651)
(2) 同教室 天竺堯義
TEL 0292-26-1621 (内線477)
10. 封筒に「宇宙物質助手公募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと。

研究会・集案内

文部省科学研究費総合研究A「擾乱媒質中の波動伝播と補償光学」第二回研究会のご案内

日時：1995年1月18日(水)～20日(金)

場所：箱根桃源台(芦ノ湖畔) 箱根アカデミーハウス

趣旨：昨年8月下旬に上記第一回研究会を国立天文台三鷹で開催致しましたが、欧米からの参加者も含めて100余名の参加があり、光学赤外線天文学に於ける補償光学のみならず、電波天文、波動の伝播の物理、高層大気物理、レーザー核融合、レーザー計測、同位体分離などさまざまな分野からの研究者に講演をして戴き、互いに境界分野の研究の進展を知る良い機会になったと好評を得ました。本年度も開催致しますので、参加者を募ります。奮ってご参加戴ければ幸いです。講演内容は前回同様、上記テーマに関するものをかなり広い分野から募りたいと思っております。

世話人：〒181 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台

家 正則、高見英樹、高遠徳尚

Fax：0422-34-3608

【おしらせ】

宇宙科学啓発ビデオ

〈宇宙へ飛び出せ〉シリーズ第3巻のご案内

文部省宇宙科学研究所では、国際宇宙年(1992年)を記念して制作を開始した宇宙科学啓発ビデオ〈宇宙へ飛び出せ〉シリーズの第3弾として、第3巻『オーロラのふるさと—地球磁気圏の科学—』(VHSカラー25分)が完成し、(財)宇宙科学振興会より発売中(価格税込み3,300円送料500円)です。



第1巻『宇宙をさぐる—ロケット・人工衛星—』並びに第2巻『母なる太陽』に引き続き、この第3巻では、専門の研究者がオーロラの謎をわかりやすく解説します。

オーロラはなぜ北極と南極の空に現れるのか、なぜあのように美しく光るのか、南極昭和基地でのオーロラ観測研究の状況、北海道で見られた赤いオーロラの貴重な映像、科学衛星で宇宙から見たオーロラの変容など、さまざまなオーロラのすばらしい映像を織り混ぜながら、地球磁気圏の構造から、オーロラの素顔に迫ります。このビデオは、小学校高学年から社会人まで幅広い年代に、感動とともに宇宙への好奇心を与えてくれるでしょう。

制作にあたっては、文部省の教科書調査官や教育現場の先生方の意見も反映されているので、学校での理科・地学の教材としても使えるように配慮されており、ぜひ学校、図書館、博物館、プラネタリウムなどでそろえてほしい作品です。また、教師や保護者を対象としたビデオに即した詳細な解説書もついております。

問合せ・申込み：財団法人 宇宙科学振興会
〒229 相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所内
TEL 0427-51-1126 FAX 0427-51-2165

編集委員 谷川清隆(編集長)、坂尾太郎、田代 信、中川貴雄、中村 士、濱部 勝、林 左絵子、半田利弘	発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内	社団法人 日本天文学会
平成6年11月20日	印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12	啓文堂 松本印刷
印刷発行	発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内	社団法人 日本天文学会
定価700円(本体680円)	電話 (0422)311-1359 (FAX自動切換)	振替口座 東京 6-13595